

年 組 名前 :

問1

秋の味覚として親しまれている

サンマの水揚げ量が、4年連続して過去最低になっています。

2020年と10年前の2012年の全国水揚げ量を教えてください。

2020年: .....トン

2012年: .....トン

問2

2020年のサンマ不漁の原因を

教えてください。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

全国さんま樺受網漁業協同組合(東京)は10日、2022年の全国のサンマ水揚げ量が前年比2.1%減の1万7910トナだったと発表した。記録的な不漁が続く、4年連続で過去最低を更新した。10年前の12年(21万8371ト)と比べ、わずかに約8%の低水準に落ち込んだ。卸価格も高止まりし、「秋の味覚」として親しまれてきたサンマが食卓から遠のいた状況が続いている。産地市場での卸売単価は全国平均で10ギ当たり

昨年1.7万トン、10年前の8%



大型船から水揚げされるサンマ=北海道根室市(2022年8月)

5758円と前年比7.2%下がったが、18年と比較すると約3倍の高値となった。総水揚げ額は9.1%減の103億179万円、200億円を超えていた18年からおよそ半減した。22年はロシアの排他的経済水域(EEZ)での漁が、漁がで

サンマ不漁 4年連続最低

年を上回っていたかも知れない」と肩を落とした。22年の漁港別の水揚げ量は、最も多い花咲(北海道)が9564トで前年比8.7%減った。本州ではやや持ち直したところが多く、2位の大船渡(岩手県)が23.6%増の3054ト、3位の気仙沼(宮城県)は1.9%増の2266トだった。一方、サンマの水揚げ量日本一になったこともある銚子(千葉県)は記録の残る1950年以降で初めて水揚げがなかった。サンマの漁場が遠くなり、銚子漁港まで運ぶ船がなかったという。

(2022年1月11日付 山梨日日新聞 22面)

問3 2022年の漁港別サンマ水揚げ量の、上位3位の漁港と水揚げ量を教えてください。

漁港名	都道府県	水揚げ量
1位 .....	.....	.....トン
2位 .....	.....	.....トン
3位 .....	.....	.....トン